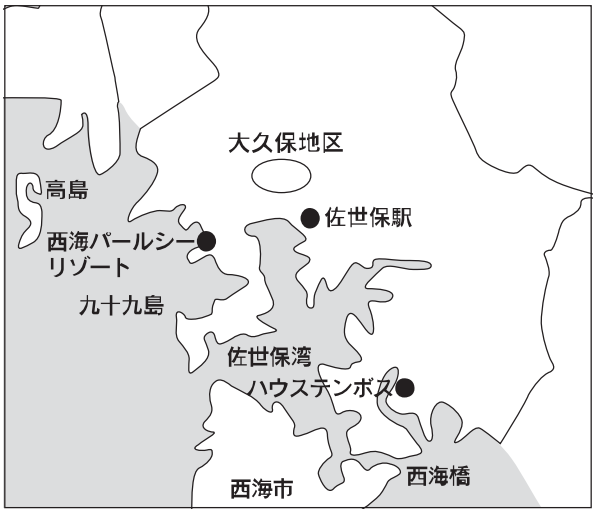
【３】大久保地区ってこんなまちです

（大久保地区の紹介）

〔佐世保市における大久保地区の位置〕



大久保地区は14の町からなり、弓張岳の麓から佐世保川河畔にかけて開けた地区です。地区内には、新旧の幹線道路や観光道路が走ると共に、保健所・警察署・法務局などの官公庁及び銀行・病院・大型スーパーなどの施設があります。また、隣接地には市役所・総合病院・消防署などがあり、市の中心部にも近いので、安心安全の生活には大変便利な地区と言えます。

中心地の近郊として歴史も古く、明治２２年（1889年）、佐世保海軍鎮守府が開庁された後、海軍関連の産業が盛んになり、地区の人口も増えました。その頃は天満町に著名な商店の他、役場や警察署の官公庁も集中していて、天満町から浜田町の通りが市のメインストリートだったようです。また、大久保地区は、佐世保で初めて小学校が開校した「小学校発祥の地」でもあり、大正１２年（1923年）、当時西日本随一と呼ばれた大久保尋常高等小学校が建てられるなど、教育文化の中心としての歴史もあります。

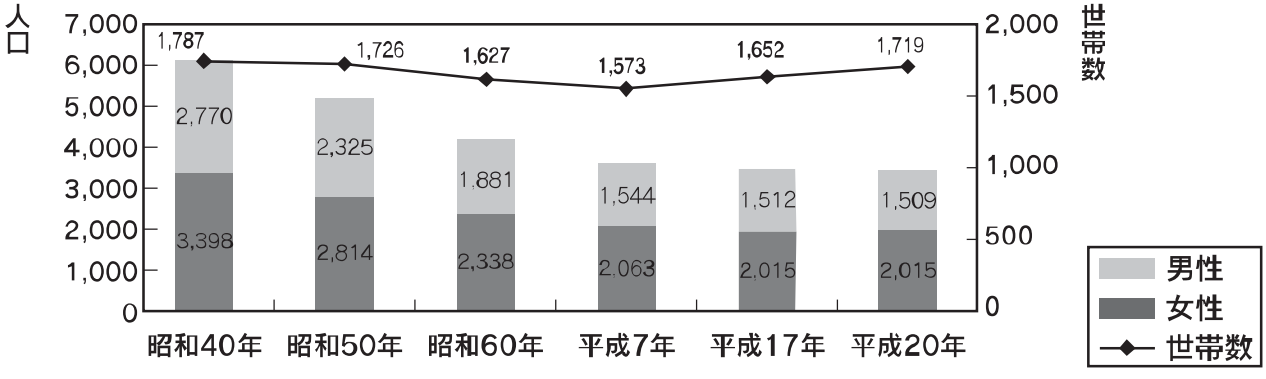
また、地区住民には、何か事ある時は進んで協力する気風が見られます。197０年代、ＰＴＡ行事である球技大会などは、町別対抗でしたが、町を挙げて応援したものです。最近では、小学校教育に対して熱心な協力体勢がとられている他、小学校と地域とのふれあい運動会や比良町の夏祭りなど、幼児から高齢者まで一つになって楽しんでいる姿はほほえましく、これらも大久保地区の一面を表しています。

★大久保地区って……どのあたりをいうの？

現在、大久保地区と呼ばれる範囲は、次のとおりです。

町　　名	相生町、天満町、浜田町、高砂町、谷郷町、木場田町、比良町、東大久保町、西大久保町、上町、元町、泉町、長尾町、園田町

（大久保地区の人口推移）　※いずれも10月1日時点の統計資料



（大久保地区“わがまち自慢”）

大久保地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

史跡 相神浦筋郡代役所跡

谷郷町のバス停横には、相神浦筋郡代役所（あいこうのうらすじぐんだい）の跡があります。郡代とは、江戸時代に平戸藩が領内を６つの行政区に分け、それぞれの区を管轄するために置いたものです。相神浦7ヶ村と早岐7ヶ村を管轄する相神浦筋郡代役所は、当初中里に置かれましたが、慶応２年（1866年）にこの場所に移されています。この辺りは、平戸住還の宿場だった所で、郡代役所横には庄屋屋敷があり、佐世保村の政治・交通の中心地だったようです。

また、この庄屋屋敷が、明治7年（1874年）9月15日に開校した佐世保小学校の校舎として利用されるなど、教育文化の発祥の地でもあります。

浄土真宗本願寺派 大智山 教法寺

教法寺は、約５００年前、宗家松浦の菩提寺として瀬戸越の大智庵城下に創建されました。明応7年（1498年）に大智庵城が落城した際に焼失しましたが、永正3年（1506年）に現在の場所に再建されました。昭和２０年の佐世保空襲で本堂庫裡幼稚園も焼失しましたが、門信徒の篤い信仰のお陰で、復興する事ができました。また境内には、明治39年（1906年）に創立された進徳幼稚園と、昭和２3年に設立された進徳保育園があります。

空襲で傷ついた大銀杏の傷も今では癒え、訪れる人に安らぎを与えています。

大久保小学校

大久保小学校は、大正12年（1923年）11月5日に大久保尋常高等小学校として開校しました。他の学校が木造だったのに比べ、当時としては珍しい鉄筋コンクリート造りのモダンな白亜の校舎でした。天井は天窓を兼ねたガラス張りで、建物の中央には屋内プール兼雨天体操場があり、その周囲に教室を配した造りは西日本随一の呼び名が高く、地域が誇りとする学校でした。

平成5年に現在の校舎に建て替わりましたが、地域が大久保小学校に抱く気持ちは今も変わりません。

行幸橋（みゆき橋）

この橋は、明治２3年（1890年）に明治天皇が鎮守府開庁式にご出席のため行幸された際に架けられた橋で、行幸を記念して「行幸橋」と名づけられました。それまでは橋がなく、渡しなどで川を渡っていましたが、陛下の御宿と同行された方々の宿泊先が川で隔てられていたため、利便性を考えて急きょ造られたそうです。

昔からこの地区に住んでいる人によれば、「そもそも橋というものは川の流れに直角に架けるものだが、この行幸橋は流れに対して斜めに架かった珍しい橋」ということです。